

図書室だより

No.9 2022. 2. 14



帝京中学・高等学校図書室

中学校と高校の入学試験が終わりました。1年生の皆さんは1年前のことを思い出すと感慨深いのではないのでしょうか。そして、もうすぐ後輩が入学してきます。早いもので今年度もまとめの時期となり、学年末考査まであと2週間ほどです。

図書室では年度末にあたり、以下のことについて、ご理解とご協力をお願いします。



- **3月7日(月)から『蔵書点検』**を行います。蔵書点検とは、図書室にある本をすべてチェックする作業なのですが、蔵書は約3万冊あるため時間がかかります。その間は閉室します。
- 蔵書点検をするにあたり、**2月26日(土)までに本を返却してください。**生徒の皆さん、そして先生方も協力をお願いします。また、**今年度の本の貸し出しは、2月19日(土)まで**とします。
- 来年度の4月当初も新入生の登録・在校生の更新など、利用者データの作成を行うため、しばらくの間、貸し出しができません。

これからの予定

- 2/21(月)~ 本の貸出中止
(自習などでの利用はできます。)
- 3/2(水)~7(月) 学年末考査
- 3/7(月)~ 蔵書点検・新年度準備のため閉室

最後に1年間図書委員として活動してくれた皆さんに感謝したいと思います。毎週忘れずにカウンター当番に来てくれた人、書棚の整理を手伝ってくれた人、などなど…ご苦労様でした。そんな本好きの図書委員が薦める本を紹介します。すべて図書室にある本ですので、ぜひ読んでみてください。

『そして誰もいなくなった』

アガサ・クリステイー

離島へ招待された老若男女。しかし、島の主であるU・N・オーエンは姿を見せないまま、一人また一人と多様な手段でいなくなっていく恐怖。誰が犯人なのかと疑い合う客たち。犯人の巧妙な手段によって繰り広げられるサスペンスは読者にも緊張感を与えてくれる。最後には驚きと爽快感がきつと残るはず。

『神さま気どりの客はどこかでそっと死んでください』

夕鷺かのう

結婚相談所で「仲人」をしている冴、コールセンターのベテラン久美子、深夜のコンビニアルバイト佳奈。この3人の“共通点”は“厄介な客に絡まれていること”と“とある神社にお参りに行ったこと”。それぞれの話を読み進めていくうちに“神社”の謎は紐解かれていくが、そこには衝撃のラストが待ち構えていた。私がタイトル買いた本の中で一番気に入っています。是非、読んでみてください。

『表参道のセレブ犬とカバーニャ要塞の野良犬』

若林正恭

将来、どのようになることが幸せなのかと考えることがあります。世間的には医者や弁護士になったり、大手の企業に勤めたりすることが幸せなのでしょうか。

この本はお笑いコンビ、オードリーのツッコミ担当である若林正恭さんがキューバ、モンゴル、アイスランドという日本とは全く違う国を旅した記録です。この本を読んで、私はその問いの答えにほんの少し近付いた気がしました。

『君の臍臓をたべたい』 住野よる

主人公の「僕」が病院で偶然拾った1冊の「共病文庫」。これは「僕」のクラスメイト「山内桜良」が患っていた臍臓の病気について記されている日記帳でした。この本のいい所は正反対の性格の2人が、互いの欠けている部分にそれぞれ憧れ、次第に心を通わせ成長していくことです。タイトルにこの物語のすべてが詰まっています。

『十五の夏』 佐藤優

「コロナ禍」が続く昨今「久しぶりに旅行に行きたいな」と思っている方も多いのではないのでしょうか。そんなあなたにおすすめなのがこの本です。時は1975年、高校1年生の筆者が東ヨーロッパやソ連といった共産主義国を旅した時の記録です。日本に住む私達にはなじみがうすい地域の、46年前の様子を知ることができるため、読んでいてとても面白いです。読み終えた時、あなたは「世界は広い」と感じるでしょう。

『舟を編む』 三浦しをん

新しい辞書『大渡海』を製作する話です。辞書を編纂するという特殊な分野の仕事に情熱をかける、人間味あふれる登場人物に引き込まれます。読み終えた時には久しぶりに紙の辞書をめくってみたいと思いました。